

## 市長定例記者会見（令和5年4月12日）録

11時30分～11時41分

それでは、定例会見を始めさせていただきます。

本日は令和5年度の最初の定例会見ということでございます。学校の方でも新学期始まりまして、今日は市立小学校の入学式が一斉に行われたということでございます。ちょうど、入学、入園式のシーズンでございますし、就職や転勤などで、新生活がスタートする、高松に入ってきたり、あるいは出ていかれたりして、新たな生活がスタートしている時期かと思っております。

先日、転勤で高松に来られている御家族と、あるいはUターンで来られている御家族たちと夕食会がございましたが、その時に色々な話ができましたけれども、総じて「高松は非常に子育てしやすいまちだ」というふうな評価をいただきました。

若い人たちの声ですけれども、本当に嬉しくありがたく思ったわけでございます。本市でも、いろいろと子育て施策やっておりますけれども、「子育てしやすいまち・高松」といったことをみんなから言っていただけるように、より一層施策の充実を図っていきたいと思っております。

### 第1回ゼロカーボンシティたかまつ緑のカーテンコンテストの開催について

それでは、題材に入らせていただきます。

今日は、こちらの1件、「ゼロカーボンシティたかまつ緑のカーテンコンテストの開催」について御報告させていただきます。

この「緑のカーテン」でございますけれども、夏の日射を遮って、冷房を控えるにできるということや、あるいは緑を育てることによって二酸化炭素の吸収源が多くなるといったようなことで効果があるということでございます。高松市でも、身近にできる地球温暖化対策として、この「緑のカーテン」の普及促進に取り組んでいるところでございます。

市民や事業者の皆さまに楽しみながら「緑のカーテン」に取り組んでもらうということのために、平成22年度から令和元年度までの間、コロナ前ではござい

ましたけれども、「たかまつ緑のカーテンコンテスト」といったものを実施しておりました。

こうした中で、コロナで中断したわけでございますけれども、先日10日（月）、新たに「高松市脱炭素型都市推進会議」を立ち上げたところでございまして、そこで設立総会を開催して、今年度から、「緑のカーテンコンテスト」をリニューアルして復活しようという話になったというものでございます。4年ぶりにこの「緑のカーテンコンテスト」を新たに立ち上げた推進会議を実施主体として実施をしたいというふうに思っております。

応募要領ですが、紙にかいてある通りですけれども、「家庭部門」とか「企業部門」「団体部門」と、3部門に加えまして、今回、新たに、緑のカーテン用に栽培したゴーヤや、きゅうりなどを使った「レシピ部門」を新たに設けております。「緑のカーテン」を使って料理をしてもらおうということで、「レシピ部門」を新たに設けているというものでございます。

応募期間は、8月1日（火）から10月2日（月）までの間ということでございます。また、この「緑のカーテン」毎年作られて、非常にベテランの方が受賞することが多いものですから、新人の方にもチャンスがあるように、新たに「新人賞」を設けております。また、優秀作品には、記念品を御用意しておりますので、皆様の応募をお待ちしております。

ところで、本市では、この7月に「G7香川・高松都市大臣会合」が開催されます。その会合自体は、持続可能な都市開発のあり方ということですが、特に脱炭素の取組といったものも非常に重要な項目、内容として取り上げられる予定でございまして。

そういう意味で言いますと、多くの皆様に、緑のカーテンづくりに取り組んでいただきまして、二酸化炭素の削減や緑化の推進を図るということで、このG7の開催に向けた機運の醸成につなげてまいりたいというふうに思っておりますのでございます。

## 【記者質問】

### 【市長】

新型コロナウイルスの影響で中断していた高松港の国際クルーズ船の受け入れが再開したが、インバウンド需要といった観光面での期待は

### 【市長】

先月29日に、令和元年10月以来、約3年半ぶりに高松港へ国際クルーズ船が入港したということでございます。ウィズコロナの下で、インバウンド回復の第一歩という感じがしまして、非常に嬉しく思っているところでございます。

コロナ禍以前につきましては、高松港へのクルーズ船の入港も含めたインバウンドの観光客の来迎は香川県は非常に伸び率が全国1位が2、3年続くなど、インバウンド需要が高まっていたところでございます。それがコロナで一転してほぼ0になったということですが、今回の入港を契機として、これから増えてくれればと思っております。

予定で聞いておりますと、高松港では、今年10月までに、14回の国際クルーズ船の寄港が予定されているということでございます。このクルーズ船の入港も含めたインバウンド需要の本格的な回復に期待を寄せているといったところでございます。

できるだけクルーズ船も何回も寄港していただけるように、乗客の方、あるいは乗組員の方に喜んでいただけるように、寄港した時には、県と連携・協力しながら、「高松城鉄砲隊」による歓迎セレモニーや、高校生による書道パフォーマンスなども実施をして、高松にいい印象を持っていただこうということで、いろんな工夫をしているところでございます。今のところ乗客の皆様からも大変好評であると聞いております。

さらに高松は他の港と比べましても、クルーズ船の発着基地から降りて歩いて繁華街や観光地が巡れるという、まちが至近距離にあるというのが1つの大きな特徴でございます。この辺につきましても広くPRしながら、旅行者の皆様にもS

NSやロコミなどで広く発信してもらい、高松に再び訪れてもらえるような動機付けに繋げていきたいと思っておるところでございます。

さらに船だけでなく、国際航空便の振興も図ってまいりたいと思っておりますが、ご承知の通り、全国の地方空港の中でいち早く昨年11月からソウル線便が復活いたしておりますし、1月からは台北便も復活しております。また、この4月16日からは香港便も定期便化されるということでございまして、順調に国際線、直行便が開港しているということは非常にありがたいことだと思っております。

これらの再開を機に、よりインバウンド需要が膨らんでいくように、それをきちっとできるように色々な工夫をしてまいりたいと、そしてインバウンドの獲得と地域経済の活性化にきちっと繋げていきたいというふうに思っているところでございます。

#### 【記者】

市長選に向けての意気込みと、今の健康状態は

#### 【市長】

選挙につきましては、高松市長選挙、今度の日曜日16日が告示で、23日が投開票日ということでございますので、それに向けて準備をすすめてまいりまして、制約、マニフェストも発表させていただいておりますし、色々なご挨拶も準備として進めてきております。

告示日以降は選挙運動ということでございますので、1週間、精一杯私の政策に関する主張といったものをしっかりと市民の皆さまに届けるようにできるだけの周知を図ってまいりたいと思っておりますし、それについて私の考え方に賛同いただけるような形の行動をとっていきたいと思っておるところでございます。

健康不安説というか、疲れているのではないかという話は伺ったりしておりますが、定期的に病院での診察も行っておりますので、その辺については全く問題はないと考えております。